

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 163 号)

発行日：2021 年 (R3) 2 月 16 日 編集/発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788  
090-1895-8061 (今住)

E-mail：[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)



「三寒四温 (さんかんしおん)」の季節を迎え、暖かい日が増えてきました。ただ、気温差が激しいような？この冬は平年並みと予想されていたのに強い寒波がやってきたときは大慌て。と思えば春のような陽気。結局 2 月が終わり、統計結果が出てみると「暖冬」という結果になるのでは？ (あくまでも私見)

「三寒四温」は本来、冬の季語だそうです。中国北東部の冬を表したものの。シベリア高気圧の動きに合わせた寒暖差から。日本はそれほどシベリア高気圧に影響を受けないが、春先に近い現象が起こる。そこで日本では 2~3 月に使うようになったとか。季語としては「冬」。常用は間違いではなくなっているのでご安心ください。

同じようによく間違える「小春日和 (こはるびより)」。これも冬 (初冬)。11~12 月の風のない暖かい日を表します。これは初冬のみだそうです、お使いの際はご注意ください！ (ただ調べただけですが・・・また、間違いもあるかも。ご指摘ください。)

急に「SDGs」が声高に叫ばれるようになりました。持続可能社会に向けて、この 10 年が勝負と言われていています。人類は持続可能か？地球温暖化が喫緊の課題ではないでしょうか。

季節を表す言葉が、これからも違和感なく使える世界が続く (もどる?) ことを願っています。

(今住 2 月 15 日作成)

## 定期活動

### ★1 月 30 (土) 定期活動 9 名で活動 第 1 湿原又マガヤ刈り

天気はいいが朝の冷え込みはかなりのもの。-4℃ぐらいか？放射冷却の力はすごい！西谷が冷え込むのは主にこれ。数日前の雨の影響か地中の水分も幾分増えたようです。行く道々山側斜面で霜柱が崩れ落ちています。



斜面から崩れ落ちる霜柱

今日の作業は第 1 湿原又マガヤ刈りに決着を！向かう会員の姿にみなぎる「やる気」。不思議なことにまだまだ余っている極上パンフレットの補充もしながらの活動です。

作業は特別なことは特になし。刈り払い機 4 台の出動。

そう言えば前回紹介した 20 年物の刈り払い機、修理に成功。燃料パイプの劣化による燃料漏れでした。(人間でいえば動脈硬化)

前回同様、操るのは 70 オーバーの肉体。こちらは動脈硬化無し？バッ



なぜかまだある贅沢パンフ補充



上手と下手から分散しての刈り取り



今季初見のアカガエル卵塊



あ〜しんど 終了!

の本番。セトウチサンショウウオは未だ見つからず。次回活動日に期待！謎はいっぱい。詳しくは「両生類セミナー」で田口先生に聞いてみよう！2月27日（土）ね。オンラインで広島からご登場！詳しくはHPで。申込みも！メール・TELでもOKです。

チリ機能しています。故障が起こる前の点検（検診）は大切だとつくづく実感いたしました。女性も刈り払い機を使っています。こちらも70オーバー。町の方ですが何事にも興味を持ち、好奇心の塊です。興味・関心こそ生きる意欲を紡ぎだしている、と学ばせていただいています。

農家では女性が機械を操るのは特別なことではありませんが、非農家の方はなかなか手を出しづらいもの。無理にとはいいせんが、チャレンジするのも一興かと思えます。化石燃料を使い、脱炭素にはなっていませんが…。充電バッテリー式のいいものも出ています。でも、お高いのが玉に瑕（きず）。

やるべきことが順調に進み、今回は両生類卵塊数調査のセンサスラインの設置のみとなりました。

で、卵は？「ふむふむふむ？」そろそろ産卵がはじまる時期。

雨も降った。条件は揃っている。「ふむふむふむ？」「ふむ・・・？」。ありました！例のつぶつぶタピオカ。数は少ないですが3つほどの卵塊が。前日の寒さのため、露出部分には氷が張っている状態。おそらくニホンアカガエル（日本赤蛙）のものと思われるが、毎年なぜこんな時期にと「人間の感覚」からは考えてしまいます。冬（早春？）に産卵するのは蛇などの外敵から守るため、と言われてはいますが真実はいかに？



レディースの刈り払い機作業

この時期に産卵する両生類は北方にルーツを持つとも。棲み分けなどいろいろな理由が重なっているのでしょうか。この卵は調査日にはオタマジャクシになっている可能性大。これからが産卵

**可愛い長靴隊登場** 2月12日（金）はなみずき保育園児14名（1人お休み残念）がご訪問！

今年はコロナ禍。西谷小学校の環境学習も今回は中止。冬に子どもたちの歓声は聞けないものと思っていました。



ところが、なんと、なんとです。保育園から訪問したいとの問い合わせが。西谷の自然環境に惚れ込んだ園長さん。自らマイクロバスの運転をし、子どもたちに自然体験（原体験？）をさせたいとの意向。しかも分園と本園両方。それぞれ別日に。この時期だと「両生類の卵塊が確認できるかもしれませんよ」とご連絡。で、この日と22日に決まりました。（今回は分園のご訪問）

保育園児といえば就学前。5歳？？？想像もできない世

竹筒ポストは幸運を運んでくれる。幸せが君に！

界。とはいえ自分も経験した世界。わずかな記憶を思い起こせば、柴刈りに親と山へ入っていたような。(1965年頃=昭和40年頃)まさしく薪(風呂焚き・おかま用)を伐り、まとめて柴納屋に。二宮金次郎が背負っているやつね。

手伝いらしきこともしていたが、だいたい棒でつついたり、無意味に走り回ったり、なぜか木に登ったりと遊びが中心・・・だったような。

だったら来てもらえば子どもが勝手に遊ぶ。ということで来ていただきました。先生方もそのつもりだったようです。

さて当日。参加したスタッフからの話によると、なかなか湿原にたどり着けなかったよう。山に入るなり薪を拾い出し「焚き火用に持って帰る」とか。そういえば今は焚火ブーム。杉葉をビニール袋に。見たように書いていますが、実は私、行けませんでした。ちょっとした事情でしばらくお山禁止。

そんなことは関係なく「全てが遊びに変わる」世界。湿原でも又マガヤストローを作ってもらって水筒から飲んだり、鳥の巣(多分メジロ)が見つかり「ヘー！」と感動したり。両生類の卵塊も見たのかな?ワクワクドキドキの時間だったようです。スタッフ(5名)はハラハラドキドキの時間だった?というより、「自分にもこんな時があったのか?」と自身への問いかけが聞こえてきたとか。「この純真な心をもう一度!」と思ったかどうかはわかりません。行ってないもーん。悔しいなー。次回も山の神に出禁されています。22日いいな〜。行きたいな〜。かみさま〜。無理です〜

山から下りてくると何やらいい匂いが。なんとキッチンカーもどき?でお出迎え。(見ていません)すごい保育園です。工夫次第で何でもできる。緊急事態宣言下ではありましたが、園の方針がしっかりしており、気持ちのいいご訪問でした。(コロナ批判は受け付けません!)



杉葉(タキギ)を手に長靴がいい!



メジロ?の巣あとですか?



又マガヤストローでお茶?長い!

**定期活動**★2月13日(土) 定期基礎調査 9名で活動 両生類卵塊数調査センサスライン張り

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
丸山	32	35	入口	10:01	10.2℃		
ハイキング	30	8	第3湿原	10:25	【9.4℃】	32.4 μS/cm	6.8
散歩・登山	28	35	視点場	10:37	15.8℃	31.5 μS/cm	7.0
			第1湿原	10:43	【8.7℃】	31.2 μS/cm	6.8
			第2湿原	11:00	【6.2℃】	36.1 μS/cm	6.8

来場者数 計 168 人  
(竹筒ポスト人数)

いよいよ月末は「両生類卵塊数調査」。センサスラインを張ります。午前セミナーと卵塊数調査は、本会創設以来欠かしたことがありません。年によっては卵塊数ゼロの年もありました。未だ原因は分かっていませんが、今年はずでに産卵を確認しています。

西谷のような中山間部の山際などに水が溜まっているような場所では、それほど珍しくもない



竹筒ポストカウント風景



センサスラインの設置作業



セトウチサンショウウオ卵囊



ニホンアカガエルの卵塊 (水中写真)



「のぼり旗」を囲んでパシャ！

生き物（卵）です。ただ最近の圃場整備で乾田化が進められ、水が溜まるような場所が無くなっている。もしくは、コンクリートの水路で山と水辺（田んぼなど）の繋がり（連続性）が断たれて移動ができない。いまや絶滅危惧種。また開けた場所を好んで産卵するので、森林の管理放棄も原因の一つとされています。

身近なはずの自然が身近でなくなりつつあることが、興味・関心を奪っていきます。セミナーや調査はお堅い話やシビアな調査ではありません。よく知ることを目的に「生物多様性とは？」や「人と自然のかかわり」を再考するきっかけになれば。

コロナ禍の中、屋外活動は気晴らしにもなります。セミナー（午前）はコロナガイドライン遵守。まだまだ空きがありますのでぜひお申し込みください。

おっと作業。今回も私は出禁！3月いっぱいか？で、またまた見たように。

第1湿原の刈り取りは終了していますが、積んだヌマガヤ（沼茅）が残っています。運び出しと並行して、基礎調査、センサスラインの設置。気温は異常に高く10:30で約16℃。4月並みの気温。前回の霜柱や氷を考えると、この差は何？やはりフェノロジー（生物季節）に変化が出るのでは？と考えてしまいます。これも「人の仕業？」と言ってしまうと異論はあるでしょうが、気候の極端化は間違いのないようです。

前回見つけることが出来なかったセトウチサンショウウオ（瀬戸内山椒魚）の卵囊もいくつか見つかりました。彼らはこの季節の極端化をどう感じているのでしょうか？

最後の氷期（約1万年前終了）に日本海が陸化（海退）し、日本列島に移動してきたとされるサンショウウオやアカガエル類。人による環境変化（コンクリート化）のない丸山湿原でなら個体数が維持できるのか？環境指標になるに違いありません。これからの10年、しっかり見ていきたいと思えます。

最後に、「保全の会活動中」表示の「のぼり旗」が出来上がりました。既製品で購入という意見もありましたが、やはり「温かみのある手作り」ということで会員が作ってくれました。レタリング・カラーもプロ並み。今までなかったのも???ですが、今後は「のぼり」を高く掲げ「不審者」と思われたいようがんばりましょう。

1旗（りゅう）で終わり？（「旗（りゅう）・流れ（ながれ）」は旗の正式な数え方だそうです。知らなかった…。）もう1旗欲しい！10年単位のオーダーで…待ちます。

やはりこれからの10年がキーワードか？

「10年ひと昔」。先の10年は「ひと未来？」。長いようで実は短い。大切に行動したいものです。

しかし、私はいつからお山に行けるのやら???

「一体何があったんや・・・？」ナ・イ・ショ！